

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
1. 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
 2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を目標に授業で鍛える学校。
 3. 「社会で愛され必要とされる人間」になるため、学校・家庭・地域等が一体となり、教育活動を展開する学校。
 4. 「目標達成に向け意欲的に取り組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。

2 中期的目標

- 今後の3年間で、さらなる学校改革と対外的なアピールを促進し、全日制総合学科としての体制を確立する。
- (1) 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する。
 - (2) ビジネス系列を軌道に乗せるとともに、進学を希望する生徒の力を伸ばす教育課程を整備する。
 - (3) 生活指導體制を確立し、「当たり前のこと」を「当たり前ができる」・「当たり前と言える」生徒を育む。
 - (4) 授業力の向上を核とした教員の教育実践力の育成に努める。
- 1 確かな学力と進路につながる力の育成
- (1) キャリア教育を学校経営の中核に据え、総合学科の特長を生かした実業教育を推進し、進路意識を醸成する。
 - ア、3年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
 - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
 - ウ、四年制大学の公募制入試・一般入試を視野に入れ、進学指導を充実させる。
 - *進路実現については、平成29年度に、就職1次合格率を80%に、公募制推薦及び一般入試による大学進学者数、50人以上をめざす。
 - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、コミュニケーション能力の育成をめざす。
 - (3) 「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
 - *学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の項目生徒評価(49.6%)を毎年3%ずつ引き上げ、平成29年度には、平成26年度から9%アップする。
 - *資格取得の延べ数を、毎年5%ずつ増やし、平成29年度には、平成26年度(件)比15%増やす。
- 2 規律・規範意識の確立と豊かな心の育成
- (1) あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
 - (2) 体育祭・文化祭等の行事を充実させ、生徒会活動の領域を広げる。また部活動の種類と質を充実させるとともに、ボランティア活動の機会を増やす等、生徒力のより一層の活性化をはかる。
 - (3) 教育相談・生徒支援委員会及び人権推進委員会と年次団との連携を強化し、いじめ・不登校等に機敏に対応できる体制を築き、個別の支援を必要とする生徒の就学保障とキャリア形成につなげる。
 - *中退者数を毎年前年度比5%ずつ引き下げ、平成29年度には、平成26年度比15%減らす。
 - *クラブ加入率を毎年3%ずつ増やし、平成29年度には、平成26年度(40.0%)から9%増やす。
- 3 家庭・地域との連携の一層の充実
- (1) 計画的な保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、メルマガによって学校情報の確実な伝達をめざす。
 - (2) 計画的な中高連絡会や適宜の中学校訪問により生徒の成育歴を把握して指導に生かすとともに、子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
 - (3) ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
 - (4) 地域公開講座・PTAバザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する。
 - *学校説明会・オープンスクールへの参加者を毎年5%ずつ増やし、平成29年度には、平成26年度(592)比15%増やす。
- 4 一体的な組織運営の実現と教職員の資質向上
- (1) 年次間の情報交換を促進し足並みをそろえた校務運営を展開するとともに、中期的には分掌を核とした全校統一的な指導體制への移行をめざす。
 - (2) 校内研修とOJTを活性化させ、中堅・若手教員の資質向上を実現する。
 - (3) 実業教育を維持・充実させるため、学校予算の適正かつ効率的な編成・執行に努める。
 - *学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価(37.9%)を毎年5%ずつ増やし平成29年度には、平成26年度から15%増やす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○今年度は「学力の充実と進路実現」を大きな重点目標として取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすく楽しい」（生徒対象）の肯定的評価は 52.1%（昨年 49.6%）「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」（教職員対象）が 69.6%（昨年 69.0%）で若干であるが成果をあげることができた。 ・一方で、「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習、指導方法の工夫・改善を行っている」（教職員対象）60.9%（昨年 65.5%）や「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」（教職員対象）43.5%（昨年 46.4%）肯定評価が低く、教職員の授業に対する姿勢が次年度への課題である。 ・今後も継続し、研究授業や公開授業、教科や教科間等における研究協議の取り組み、授業観察を通じて生徒が「主体的に学ぶ」土壌づくりをめざす。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は、生徒の意見を聞いてくれる」（生徒対象）62.9%（昨年 62.1%）「学校で、男女は平等に扱われている」（生徒対象）73.7%（昨年 74.5%）教員との信頼関係の数値も年々上昇しており、学校での取り組みが「人権教育」の大切な要素であることを理解できるように育てたい。 ・生徒の行事・クラス活動・の肯定的数値は非常に高いが、部活動、自治活動に関する肯定率は低く、活力があり魅力ある学校と実感できるように育てたい。 ・今後も生徒が安心・安全で学校生活を過ごすことのできる環境づくりに取り組みたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の全設問について、肯定的数値が 73.6%（昨年 72.3%）でわずかずつだが、上昇している。 ・保護者の「学校は、教育情報について提供の努力をしている」の肯定率は 71%で（昨年 69.1%）で昨年度より上昇している。今後も学校 HP 等を通じて、保護者・在校生・中学生や地域等に本校の実績・実態を適切に伝わるよう情報提供や広報活動に努めたい。 ・校長の学校運営方針の明確化および、リーダーシップに関する肯定感、それぞれ 87.0%、72.7%と昨年より 10%以上上昇している。 ・各分掌間の有機的な機能についての肯定感は低く、教職員間において、さまざまな場面での話し合いの場を充実させ協働し、情報を共有することでチーム学校として取り組みたい。 	<p>第 1 回（7/10）</p> <p>【平成 27 年度学校経営計画について】</p> <p>○確かな学力と進路につながる力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は授業がすべて。教材研究をしっかりと授業に取り組んでほしい。 ・生徒に前向きに学びたいと思う気持ちにさせることが大事。 ・勉強する機会は社会に出てからもある。学校教育では基本を教えてほしい。 <p>○キャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18 歳で進路を決めるのは難しい。会社と生徒のマッチングのため、教員が生徒と一緒に企業回りをしてほしい。 <p>○家庭・地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が高齢化しており、高校生に地域との関わりを今以上に持ってほしい。 ・中高連携が必要であり、クラブ交流など少しずつ連携を深めていきたい。 <p>第 2 回（11/27）</p> <p>【授業見学を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学 I の習熟度別授業は素晴らしかった。 ・少人数展開の授業は、空間的な圧迫感がなく、授業に参加しやすそう。 ・集中して授業に取り組んでいるクラスもあれば、そうでないクラスもある。クラスによってはしんどいところもあり、今後、クラスづくりが大事。 ・1 年次は数学の他、国語と英語が少人数展開ということだが、特に、英語も習熟度別にしたらよいと思う。 <p>第 3 回（2/25）</p> <p>【学校教育自己診断について】</p> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽部等、地域の行事に参加してくれて助かっている。引き続き連携を深めていきたい。 ・学校行事にできれば地域の役員を招待してほしい。 <p>○中高連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東住吉総合の先生に、中学 1 年生のキャリア教育で講演をしてもらい、生徒たちはすごく興味を持って聞いていた。次年度も引き続きお願いしたい。 ・東住吉総合は ICT 機器が豊富なので、教員研修も一緒に実施して先生方の交流を深めてほしい。 <p>○学校運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東住吉総合の生徒のイメージは以前に比べ、かなり良くなっている。 ・教員間のバランスをとるのが難しいのではないかとと思われる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と進路につながる力の育成	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <p>ア、体系的キャリア教育プログラムの充実</p> <p>イ、キャリア教育推進事業の定着</p> <p>ウ、資格取得率と進学指導の充実</p> <p>(2) 学ぶ姿勢の確立と「確かな学力」の育成</p> <p>(3) 「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・学校マネジメント予算を活用し、効果的なキャリア教育を推進する。 ・人気産業活用事業・地域人づくり事業の成果を継続させ、外部人材を活用した職業教育の定着を図る ・資格取得の指導を引き続き充実させ、とりわけ質の高い資格に挑戦させる ・4 年制大学進学希望者に対する組織的な進学指導を拡充する。進学意識の向上と受験学力の育成に 1 年次から取り組む体制を築く。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業の学び直し教材等を活用し、基礎学力の定着に取り組む。参加型の授業を各分野で増やす。 ・ICT を活用した授業ができる環境を整備する。 ・追認考査の合格率について 50%以上をめざす <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善委員会を中心に、魅力ある授業づくりに学校をあげて取り組む。 	<p>(1)</p> <p>ア、学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目生徒評価 (75.4%) の平成 26 年度から 3%アップ</p> <p>ウ、資格取得延べ数平成 26 年度 (件) 比 10%増をめざす</p> <p>エ、公募制大学入試の受験者数を 2 割増やす (H26 は 18 人)</p> <p>オ、就職一次試験の内定率 75%以上をめざす。</p> <p>(2) 学校教育自己診断「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫」の項目教職員評価 (68.9%) を平成 26 年度から 5%アップ</p> <p>(3) 学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の項目生徒評価平成 26 年度 (49.6%) から 5%アップ</p>	<p>(1)</p> <p>ア、学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目生徒評価は 77.9% (1 年次は 84.8%) で平成 26 年度から 2.5%アップ (△)</p> <p>ウ、資格取得延べ数は、3/20 現在 309 件。平成 26 年度は 224 件。平成 26 年度比 38%増。(◎)</p> <p>エ、4 年制大学進学者は、32 名。近畿大学 2 名、摂南大学 1 名、大阪経済大学 1 名など。平成 26 年度は 28 名。平成 26 年度から 14.3%アップ (◎)</p> <p>オ、就職一次試験の内定率 80.0%。昨年度の 74.2%から大幅アップ。(◎)</p> <p>(2) 学校教育自己診断「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫」の項目教職員評価は 69.6%。平成 26 年度から 0.7%のアップにとどまった。(△)</p> <p>ICT 情報機器の授業への活用は、73.9%と高い。(○)</p> <p>(3) 学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の項目生徒評価は 52.1%。平成 26 年度から 2.5%アップにとどまったが、1 年次は 58.1%と高い。(△)</p>

府立東住吉総合高等学校

2 規律・規範意識の確立と豊かな心の育成	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立と規範意識の育成</p> <p>(2) 生徒会活動及び部活動の充実</p> <p>(3) 教育相談・生徒支援委員会及び人権推進委員会活動の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導については、生徒指導部を中心に統一した指導体制を築く。頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育祭の種目を見直し体育競技としての質の向上を図る。文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、将来的な外部公開に向けた条件整備をする。 クラブ体験入部を充実させ、クラブ活動を活性化する。 人権ホームルームの充実をはかる。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学時の支援カードを活用し、カウンセラーと連携して生徒支援体制を実りあるものにする。 	<p>(1) 年間遅刻総数平成 26 年度比 10%減</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒評価平成 26 年度(65.0%)から 5%アップ <p>(2) 学校教育自己診断「文化祭、体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の生徒評価平成 26 年度(64.4%)から 5%アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動参加率平成 26 年度(40.0%)から 3%アップ <p>(3) 中退者数平成 2 6 年度比 10%減</p>	<p>(1) 年間遅刻総数は 3846 人。平成 26 年 3757 人より微増。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒評価は 67.0% (1 年次は 73.2%) 平成 26 年度から 2%アップ。(△) <p>(2) 学校教育自己診断「文化祭、体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の生徒評価は 69.1% (1 年次は 76.7%) 平成 26 年度から 4.7%アップ。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動参加率は 42%。平成 26 年度から 2%アップ。1 年次は 50%にアップした。(○) <p>(3) 中退者は 9 名、昨年度 20 名に比 55%減少している。(○)</p>
3 家庭・地域との連携の一層の充実	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携</p> <p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p> <p>(4) 地域連携の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校情報の保護者への伝達の豊富化に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。また、PTA活動を組織的かつ計画的に実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出前授業やクラブ交流等を通して、地域の中学校との連携を促進する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページを刷新し、学校情報の一層の発信に努める。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域公開講座等の対象を平野区全体に広げ参加者を増やし、地域に理解され信頼される学校づくりに努める 	<p>(1) 学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者評価平成 26 年度(49.5%)から 5%アップ</p> <p>(2) 出前授業やクラブ交流の回数を昨年度比 2 割増にする (H26 は 8 回)</p> <p>高大連携校の増加 (H26 は 1 校)</p> <p>(3) 学校説明会・オープンスクール参加者平成 2 6 年度(592 人)比 1 0 %増</p> <p>(4) 地域連携回数の増加</p>	<p>(1) 学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者評価は 58.4% (1 年次は 66.4%) 平成 26 年度から 8.9%の大幅アップ。(◎)</p> <p>(2) 出前授業、クラブ交流を現時点で 12 回実施。昨年度比 5 割増。(◎)</p> <p>高大連携校を 1 校増加し 2 校に。(○)</p> <p>(3) 学校説明会・オープンスクール参加者は延べ 480 人。昨年度と実施形態が変わったが、平成 26 年度同時期比 18%減 (△)</p> <p>(4) 地域公開講座や平野区の産業交流フェアに学校として取組み参加した。H27 年度 5 回。H26 年度は 2 回。(○)</p>
4 一体的な組織運営と教職員の資質向上	<p>(1) 全校的な指導体制の構築</p> <p>(2) 中堅・若手教員の資質向上</p>	<p>(1) 年次主任会を充実させるとともに、分掌会議を定例化に近づけ、分掌業務においても年次間の足並みをそろえる。</p> <p>(2) 校務関係の見識を高めるための校内研修を充実させ、中堅・若手教員の資質の向上に取り組む。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価平成 26 年度(37.9%)から 5%アップ</p> <p>(2) 校務関係の校内研修を 1 回実施する</p>	<p>(1) 分掌会議の定例化が実施できず、学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価は 34.8%にとどまった。(△)</p> <p>(2) 生徒指導関係、人権研修、ICT 研修、キャリア教育、授業関係等の校内研修を年 8 回実施した。(◎)</p>